

## II 調査及び課題活動状況

### オキナワモズクの着生時期と着生基質について

奥原 哲夫 宜野座町漁業研究会

恩納 村吉 吉山 盛輝

#### 1. はじめに

沖縄の珊瑚礁内海には水深数メートルの干潟地帯があり、モズクをはじめ多数の水産動植物が生息し、資源繁殖に適した条件を備えている。が最近漁場が汚染されて自然状態に於けるオキナワモズクの生産高がその必要性に反して減少している。これは沖縄県に於ける各地漁業者の共通した悩みとなっている。

そこでモズク栽培に関してもその必要性を認めているものの、栽培技術や経験がないため、普及員の指導を期待しているところである。そこでモズク栽培上の基本的な考え方としてはモズクの着生時期と着生基質の把握であると考え、次のとおり調査を実施した。

#### 2. 着生時期と着生基質

オキナワモズクの着生時期については、毎月新しいブロックを海底に沈めて観察したところ、7月から12月にかけて毎月オキナワモズクの着生が観察され、その間で最も着生が盛んだったのは8月下旬から9月上旬にかけてであった。

その他ブロック以外の基質として鉄筋、ワラ網、自然石、セメント瓦、車のタイヤ、ナイロン網等も観察したが、鉄筋の方はブロックより着生したオキナワモズクの生長はよかったように思われる。ワラ網と自然石も着生効果は大きくブロックに劣るとは思われないが、セメント瓦の方は着生率が悪かった。車のタイヤとナイロン網にはオキナワモズクの着生は観察されなかった。

#### 3. 今後の課題

近年は山地開発のため沿岸が汚染され、モズク増産のため海底に沈めたブロックが砂泥におおわれる。又ブロックに付着する動植物もオキナワモズクの着生を悪くしているようである。そのため海底に沈めたブロックは一年しか使用できないというおそれがあり、今後はこの問題を解決するため沈めたブロックを毎年ひっくりかえして海底側の下面を海面側の上面と交代するなどの処置が必要であろうと考える。